



平成29年3月期

ソフト99コーポレーション

決算説明会

平成29年5月31日

- 本プレゼンテーション、および引き続き行われる質疑応答の際の回答には、将来に関する見通し、期待、判断、計画あるいは戦略が含まれております。
- この将来予測に基づく記載や発言は、製品の需要変動、景気動向、天候およびその他のリスクや不確定要素を含みます。
- 本プレゼンテーションおよび、引き続き行われる質疑応答の際の回答に含まれる全ての将来的予測に基づく記載や発言は、プレゼンテーションの日に入手可能な情報に基づいており、私たちは、このような将来予測に基づく記載や発言を更新する義務を負いません。
- またこの記載や発言は、将来の実績を保証するものではなく、実際の結果が私たちの現在の期待とは実体的に異なる場合があります。このような違いには、多数の要素が原因となりえます。

I : 企業グループの概要

株式会社 ソフト99コーポレーション

創 立	昭和29年(1954年)10月28日
資 本 金	2,310,056,000円
代 表 者	代表取締役社長 田中 秀明
従業員数	199名 (平成29年 3月31日現在)
事業内容	自動車用・家庭用ケミカル用品の製造販売

当社主要製品の歴史

1969年
「ハンネリ」



1978年
「ボデーペン」



1987年
「タイネット」



1993年
「めりめりガラコ」



1995年
「99工房シリーズ」



1999年
「フクピカwet」











2006年
「メガネのシャンプー」



関係会社一覧



社名	所在地	資本金 又は 出資金	議決権に対する 提出会社の 所有割合	関係内容
アイオン(株) 	大阪市中央区	482百万円	100.0%	資金の援助・不動産の賃貸 役員の兼任
アスモ(株) 	大阪市中央区	80百万円	100.0%	資金の援助・不動産の賃貸 役員の兼任
上海速特九九化工有限公司 	中華人民共和国 上海市	5,650 千米ドル	100.0%	役員の兼任
(株)ソフト99オートサービス 	大阪市中央区	50百万円	100.0%	資金の援助・不動産の賃貸 役員の兼任
(株)くらし企画 	東京都江東区	50百万円	100.0%	役員の兼任・不動産の賃貸
アライズ(株) 	大阪市中央区	50百万円	100.0%	資金の援助・不動産の賃貸 役員の兼任
(株)オレンジ・ジャパン 	東京都江東区	30百万円	100.0%	資金の援助・不動産の賃貸 役員の兼任
(株)アンテリア 	大阪市中央区	10百万円	100.0%	資金の援助・不動産の賃貸

事業セグメントの概要



ファインケミカル	カー用品（一般用・業務用）	 (株) ソフト99コーポレーション
	家庭用品等製品	
	海外事業	 上海速特九九化工有限公司
	海外カー用品輸入・販売	 (株) アンテリア
	TPMS企画・開発・販売	 (株) オレンジ・ジャパン
ポーラスマテリアル	産業資材部門	 アイオン(株)
	生活資材部門	
サービス	オートサービス事業	 (株) ソフト99オートサービス
	教習事業	 アスモ(株)
	生活用品企画販売事業	 (株) 暮らし企画
不動産関連	不動産賃貸事業	 (株) ソフト99コーポレーション
	温浴事業	
	介護予防支援事業	 アライズ(株)

Ⅱ：連結業績の概要

連結業績（損益：対前年比較）

- 売上・・・ファインケミカルセグメントおよびポラスマテリアルセグメントの好調で増収。
- 営業利益・・・全てのセグメントで増益となり、上場来最高益。
- 税金等調整前当期純利益・・・厚生年金基金解散損失等の影響により減益。

（単位：百万円）

	平成28年3月期	平成29年3月期	対前年比・増減額	対前年比・増減率
売上高	22,052	22,369	+ 316	+ 1.4%
売上総利益	7,977	8,309	+ 332	+ 4.2%
売上総利益率	(36.2%)	(37.1%)	(+ 0.9pt)	-
販売費及び一般管理費	5,726	5,890	+ 163	+ 2.9%
営業利益	2,250	2,419	+ 169	+ 7.5%
営業利益率	(10.2%)	(10.8%)	(+ 0.6pt)	-
経常利益	2,439	2,597	+ 157	+ 6.5%
税金等調整前当期純利益	2,674	2,485	▲ 188	▲ 7.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,774	1,790	+ 15	+ 0.9%

要約連結キャッシュフロー（対前年比較）

（単位：百万円）

	平成28年3月期	平成29年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,330	2,030
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲35	▲892
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲308	▲503
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲0	▲2
現金及び現金同等物の増加額（△減少額）	1,985	631
現金及び現金同等物の期首残高	12,063	14,049
現金及び現金同等物の期末残高	14,049	14,680

減価償却費	692	681
設備投資額（※）	444	1,032

（※）有形固定資産の取得による支出

要約連結貸借対照表 (対前期末比較)

(単位：百万円)

	平成28年 3月末	平成29年 3月末	増減額		平成28年 3月末	平成29年 3月末	増減額
流動資産	20,909	21,887	+ 978	流動負債	3,209	2,771	▲ 437
現金及び預金	14,493	15,136	+ 643	買入債務	1,002	1,054	▲ 51
売上債権	3,452	3,582	+ 129	未払法人税等	628	286	▲ 341
有価証券	200	602	+ 401	未払金・未払費用	1,083	1,051	▲ 32
棚卸資産	2,248	2,189	▲ 59	その他	495	379	▲ 116
その他	535	376	▲ 158	固定負債	3,642	3,619	▲ 23
固定資産	28,507	28,782	+ 275	負債合計	6,851	6,390	▲ 461
有形固定資産	21,723	21,981	+ 257	純資産	42,565	44,279	+ 1,714
無形固定資産	154	141	▲ 13	株主資本	42,358	43,738	+ 1,380
投資その他の資産	6,628	6,660	+ 31	その他包括利益累計額	206	540	+ 333
資産	49,417	50,670	+ 1,253	負債及び純資産	49,417	50,670	+ 1,253

連結ハイライト指標（対前年比較）



	平成28年3月期	平成29年3月期	増減
総資産（百万円）	49,417	50,670	+ 1,253
純資産（百万円）	42,565	44,279	+ 1,714
自己資本比率	86.1%	87.4%	+ 1.3pt
ROA（経常利益／総資産）	5.0%	5.2%	+ 0.2pt
ROE（純利益／純資産）	4.2%	4.1%	▲ 0.1pt
総資産回転率（売上高／総資産）	0.44	0.44	▲ 0.00
1株当たり純利益（円）	81.60	82.57	+ 0.97
1株当たり配当（円・年額）	18.00	21.00	+ 3.00
配当性向	22.1%	25.4%	+ 3.3pt

Ⅲ：セグメント業績の概要

ファインケミカル（損益：対前年比較）

- 一般用自動車製品の販売は、ガラスケアが好調もボディケアで落ち込みトータルで微減。
- 業務用製品販売および海外事業が伸長しセグメント全体では増収増益。

(単位：百万円)	平成28年3月期	平成29年3月期	対前年比 増減額	対前年比 増減率
売上高	10,690	10,806	+116	+1.1%
（一般用：ボディケア）	(2,019)	(1,938)	(▲81)	(▲4.0%)
（一般用：ガラスケア）	(3,354)	(3,452)	(+97)	(+2.9%)
（一般用：リペアグッズ）	(2,212)	(2,185)	(▲26)	(▲1.2%)
（業務用）	(1,317)	(1,431)	(+114)	(+8.7%)
（家庭用品等）	(570)	(581)	(+11)	(+1.9%)
（海外事業）	(947)	(1,050)	(+102)	(+10.8%)
（TPMS：タイヤ空気圧監視装置）	(146)	(99)	(▲47)	(▲32.5%)
（その他）※樹脂容器販売を含む	(121)	(67)	(▲53)	(▲44.4%)
売上総利益	5,059	5,220	+160	+3.2%
粗利益率	47.3%	48.3%	+1.0pt	-
営業利益	1,225	1,305	+80	+6.6%
営業利益率	11.5%	12.1%	+0.6pt	-

ポーラスマテリアル（損益：対前年比較）

- 売上高は全分野で前年を上回る。
- 産業資材・生活資材ともに国内販売が伸長。海外も堅調。
- 売上高の増加による工場の稼働率向上が原価改善につながり増益。

(単位：百万円)	平成28年3月期	平成29年3月期	対前年比 増減額	対前年比 増減率
売上高	4,909	5,178	+268	+5.5%
(産業資材)	(3,546)	(3,668)	(+122)	(+3.4%)
(国内)	(1,763)	(1,876)	(+113)	(+6.4%)
(海外)	(1,783)	(1,792)	(+9)	(+0.5%)
(生活資材)	(1,364)	(1,510)	(+146)	(+10.7%)
(国内)	(615)	(708)	(+93)	(+15.2%)
(海外)	(749)	(801)	(+52)	(+7.0%)
売上総利益	1,561	1,681	+120	+7.7%
粗利益率	31.8%	32.5%	+0.7pt	—
営業利益	649	698	+48	+7.5%
営業利益率	13.2%	13.5%	+0.3pt	—

サービス（損益：対前年比較）

- 自動車整備・钣金事業は、新規開拓による自動車ディーラーからの在庫増加およびコーティング・プロテクションフィルム施工サービスの好調により増収。
- 自動車教習事業では普通車・中型車両教習の入所者増加、法人向け講習増加により増収。
- 生活用品企画販売事業においては主力の生協向け販売の低調により減収。
- サービスセグメント全体では減収となるも、自動車整備・钣金事業の利益改善により増益。

(単位：百万円)	平成28年3月期	平成29年3月期	対前年比 増減額	対前年比 増減率
売上高	4,983	4,942	▲41	▲0.8%
(自動車整備・钣金事業)	(2,359)	(2,388)	(+28)	(+1.2%)
(自動車教習所)	(857)	(870)	(+12)	(+1.4%)
(生活用品企画販売)	(1,766)	(1,683)	(▲82)	(▲4.7%)
売上総利益	1,059	1,106	+46	+4.4%
粗利益率	21.3%	22.4%	+1.1pt	-
営業利益	102	144	+41	+40.3%
営業利益率	2.1%	2.9%	+0.8pt	-

不動産関連（損益：対前年比較）

- 不動産賃貸事業は、物流倉庫建替えにともなうテナント賃料収入減少により減収。
- 温浴事業は一部店舗での設備故障による来店客数減少が影響し減収。
- 介護予防支援事業では登録者数の増加により増収。
- 不動産セグメント全体では減収となるも、介護予防支援事業の収益改善により増益。

(単位：百万円)	平成28年3月期	平成29年3月期	対前年比 増減額	対前年比 増減率
売上高	1,468	1,441	▲27	▲1.8%
(不動産賃貸)	(370)	(364)	(▲6)	(▲1.6%)
(温浴事業)	(1,074)	(1,030)	(▲44)	(▲4.1%)
(介護予防支援事業)	(23)	(47)	(+23)	(+98.4%)
売上総利益	296	301	+5	+1.7%
粗利益率	20.2%	20.9%	+0.7pt	-
営業利益	260	261	+1	+0.5%
営業利益率	17.7%	18.2%	+0.5pt	-

セグメント情報（セグメント別売上高・営業利益比較）



（単位：百万円）

売上高	平成28年3月期	(全体構成比率)	平成29年3月期	(全体構成比率)	対前年構成比率 増減
ファインケミカル	10,690	(48.5%)	10,806	(48.3%)	▲0.2pt
ポーラスマテリアル	4,909	(22.3%)	5,178	(23.1%)	+0.8pt
サービス・不動産関連	6,452	(29.2%)	6,383	(28.5%)	▲0.7pt
合計	22,052	(100.0%)	22,369	(100.0%)	—

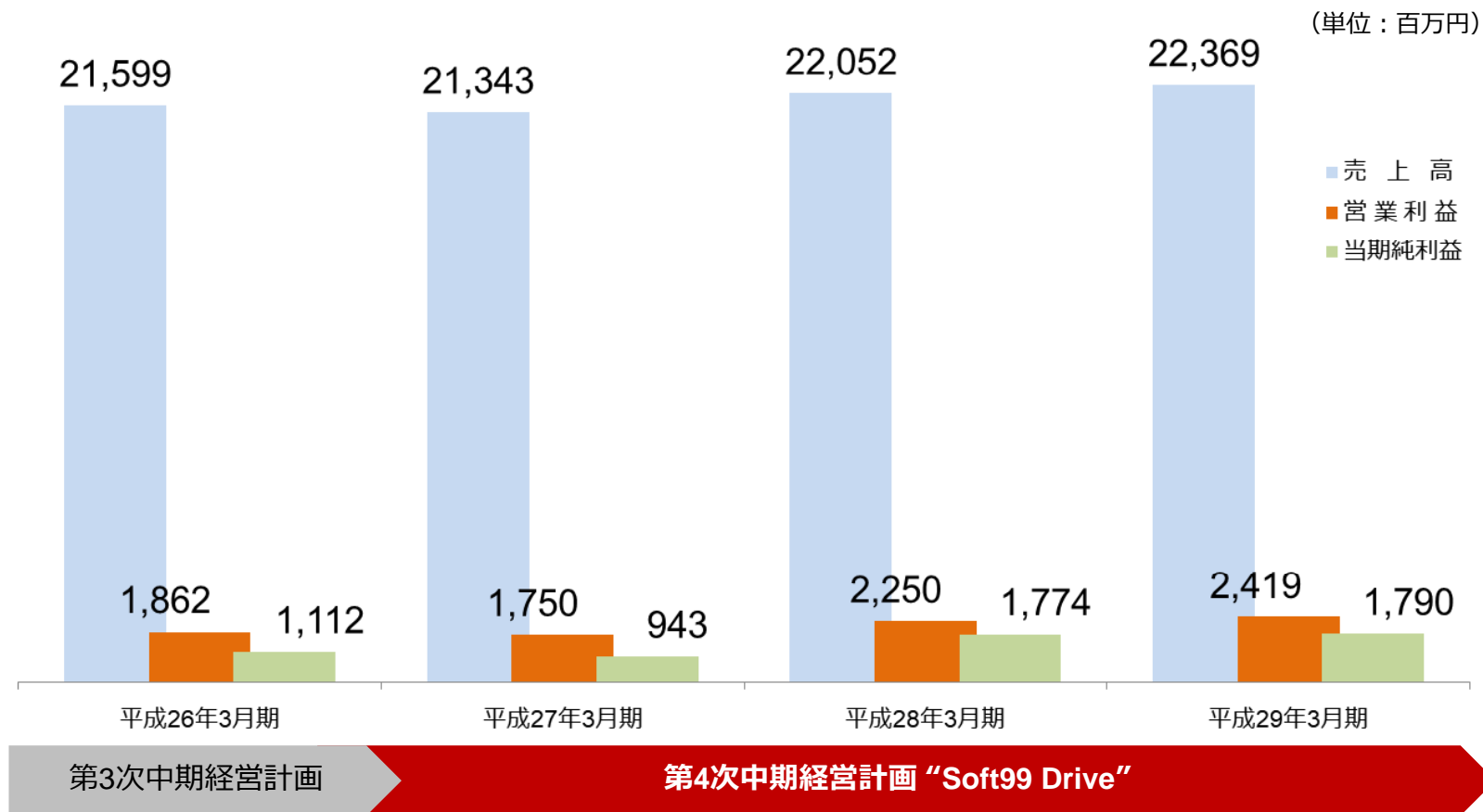
営業利益	平成28年3月期	(全体構成比率)	平成29年3月期	(全体構成比率)	対前年構成比率 増減
ファインケミカル	1,225	(54.4%)	1,305	(53.9%)	▲0.5pt
ポーラスマテリアル	649	(28.8%)	698	(28.9%)	+0.1pt
サービス・不動産関連	363	(16.1%)	406	(16.8%)	+0.7pt
(※) 合計	2,250	(100.0%)	2,419	(100.0%)	—

(※) 合計には調整額を含む。

IV：新中期経営計画について

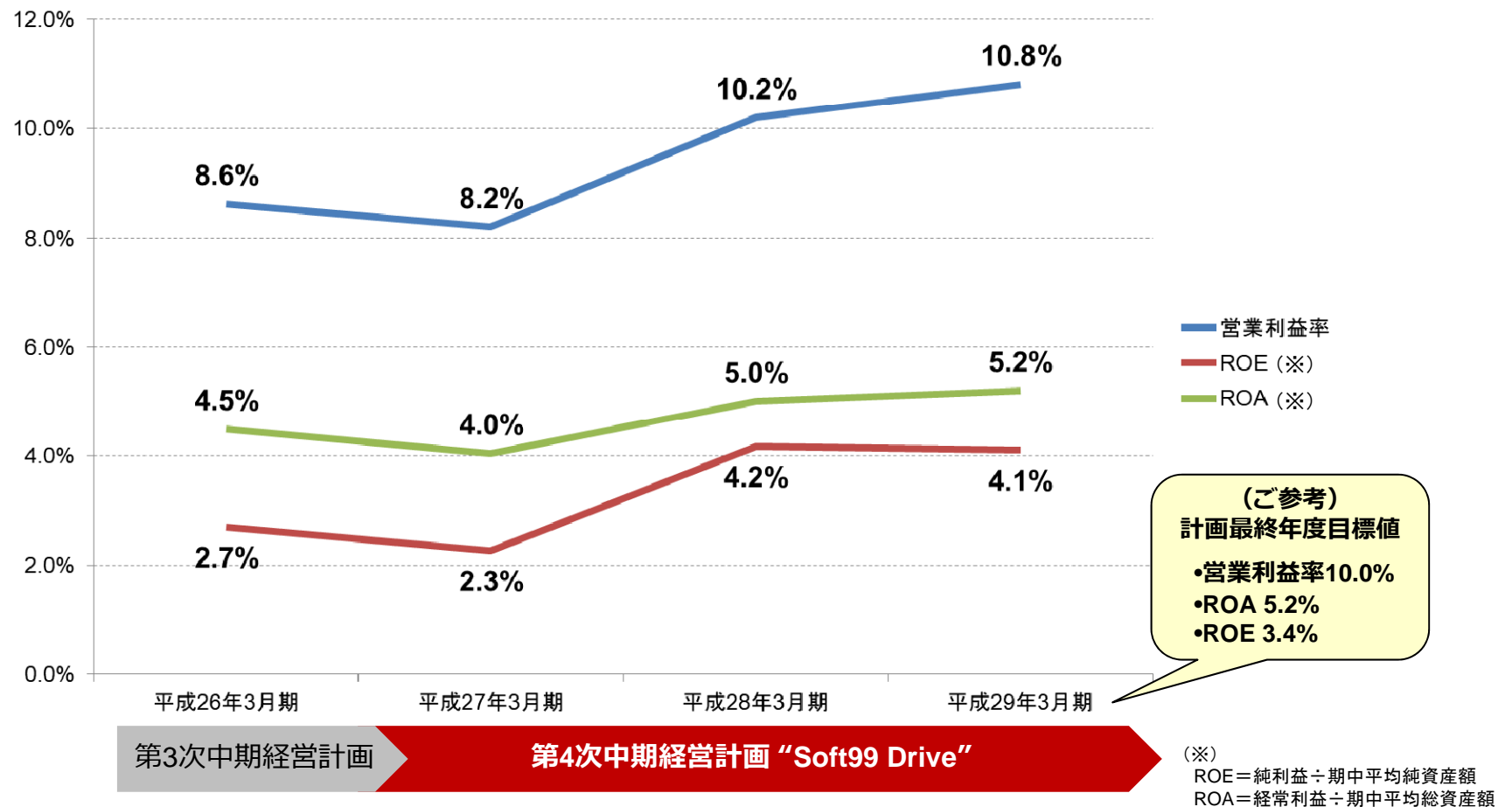
前中期経営計画の振り返り（1/5：連結損益）

■ 当初策定した計画最終年度利益目標は達成するも売上目標は未達。事業拡大に課題を残す。



前中期経営計画の振り返り (2/5：経営効率性指標)

■ 営業利益率の向上に伴い、ROA・ROEも改善傾向。最終年度の計画目標値達成。



前中期経営計画の振り返り (3/5 : セグメント別損益)

- 全ての事業セグメントにおいて増収増益となった。
- ポーラスマテリアルが成長を牽引した。

(単位 : 百万円)

事業セグメント	売上高			営業利益		
	第3次中期計画 平成26年3月期	第4次中期計画 平成29年3月期	増減	第3次中期計画 平成26年3月期	第4次中期計画 平成29年3月期	増減
ファインケミカル	10,648	10,806	+158	1,202	1,305	+103
ポーラスマテリアル	4,669	5,178	+508	485	698	+212
サービス	4,887	4,942	+54	9	144	+134
不動産	1,393	1,441	+48	154	261	+107
(調整)	—	—	—	10	9	▲0
合計	21,599	22,369	+769	1,862	2,419	+557

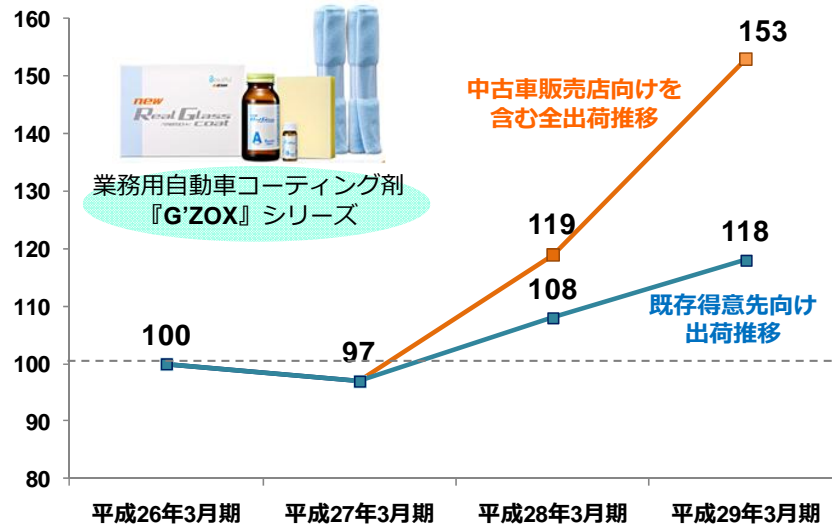
前中期経営計画の振り返り (4/5 : トピックス①)

■ ファインケミカルセグメントのトピックス

- ✓ 一般用カー用品：ボディケア・リペアは伸び悩むも、ガラスケア『ガラコ』ブランドで販売拡大
- ✓ 業務用カー用品：自社ブランドコーティング剤の販路拡大
- ✓ 海外販売：欧州での販売拡大、アジアでの現地専売品販売強化
- ✓ 家庭用製品：メガネケア分野の周辺製品ラインアップ強化・販売拡大
- ✓ TPMS（タイヤ空気圧監視装置）企画・開発・販売の開始

業務用自社ブランドコーティング製品 販売推移

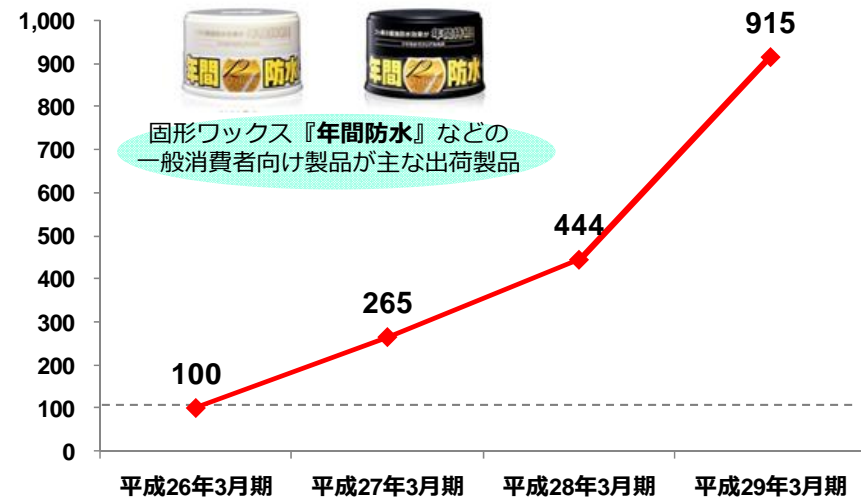
(平成26年3月期出荷数を100とした指数)



- ⇒ 平成28年3月期より中古車販売店向け導入開始。
- ⇒ 平成29年3月期より中古車販売店向け出荷が本格化。

欧州向け自動車製品 販売推移

(平成26年3月期売上高を100とした指数)



- ⇒ ポーランド、イギリス、ウクライナ等の新仕向け地に向けた出荷が拡大。

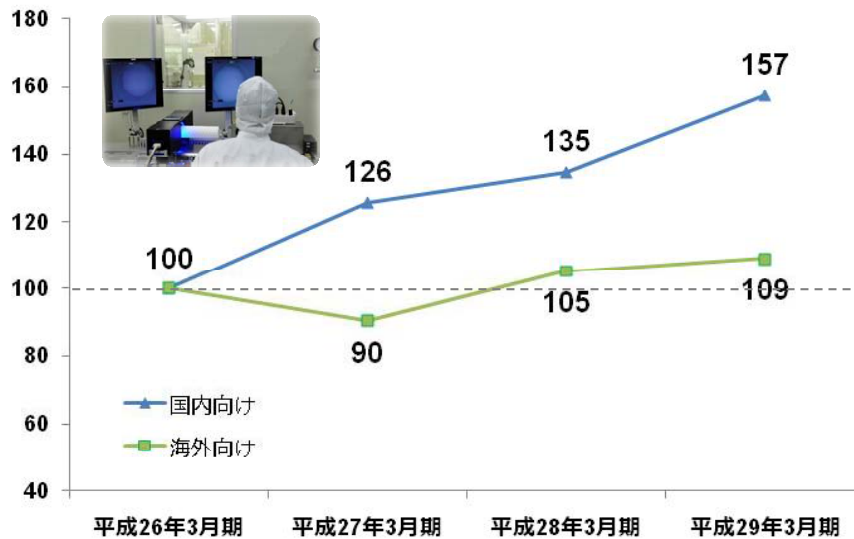
前中期経営計画の振り返り (5/5 : トピックス②)

■ ポーラスマテリアルセグメントのトピックス

- ✓ 産業資材：国内向け半導体洗浄用途製品の販売拡大、医療用吸水材の販売本格化
- ✓ 生活資材：国内向け家庭用製品および自動車用製品が販売拡大

産業資材（半導体洗浄用途）製品 販売推移

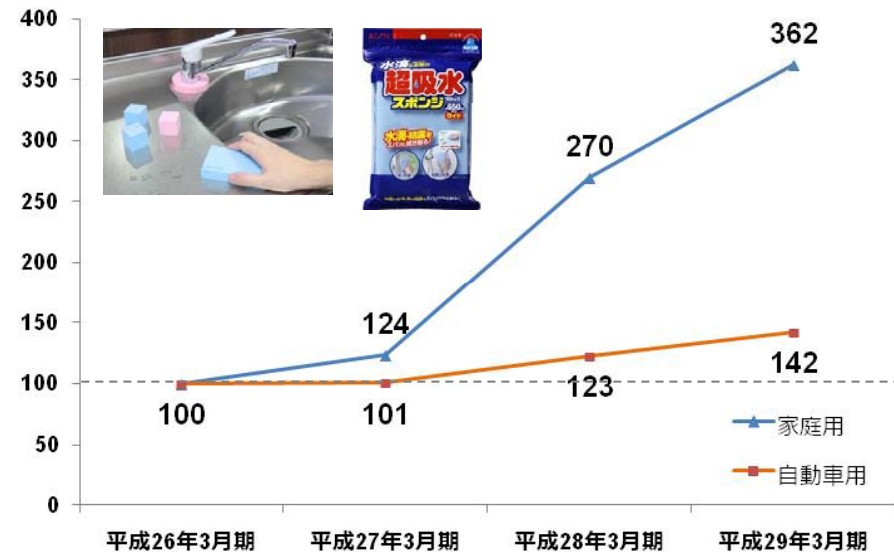
(平成26年3月期売上高を100とした指数)



⇒ 高精度・高洗浄製品の提案営業の開始により、大手メーカーの新造ライン向けに導入が進む。

生活資材（国内向け）製品 販売推移

(平成26年3月期売上高を100とした指数)



⇒ 家庭用……TV番組での紹介をきっかけに導入拡大。
 ⇒ 自動車用……ファインケミカル事業との協働によって売り場が拡大。

当社グループを取り巻く経営環境の認識 (1/2)

- 当社の事業セグメントの対象市場は、『自動車』『産業』『生活』の3分野に分類される。
- 現状の販売における中核事業は自動車分野と産業分野となっており、事業セグメントに横串を通した事業運営が必要となっている。

当社グループの提供する製品・サービス分類

		事業セグメント			
		ファインケミカル	ポーラスマテリアル	サービス	不動産
対象市場	自動車分野	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 一般用製品 ✓ 業務用製品 ✓ 海外事業 ✓ TPMS企画販売 ✓ 自動車用品輸入販売 ✓ パッケージ企画販売 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ PVA等機能性多孔質体 (生活資材) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 自動車钣金整備 ✓ 自動車運転教習 	-
	産業分野	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 表面改質技術・製品 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ PVA等機能性多孔質体 (産業資材) 	-	-
	生活分野	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 家庭用品等 ✓ パッケージ企画販売 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ PVA等機能性多孔質体 (生活資材) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 生活用品企画販売 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 不動産賃貸 ✓ 温浴施設運営 ✓ 介護予防支援

(注) …売上高の大きい現在の中核事業

当社グループを取り巻く経営環境の認識 (2/2)

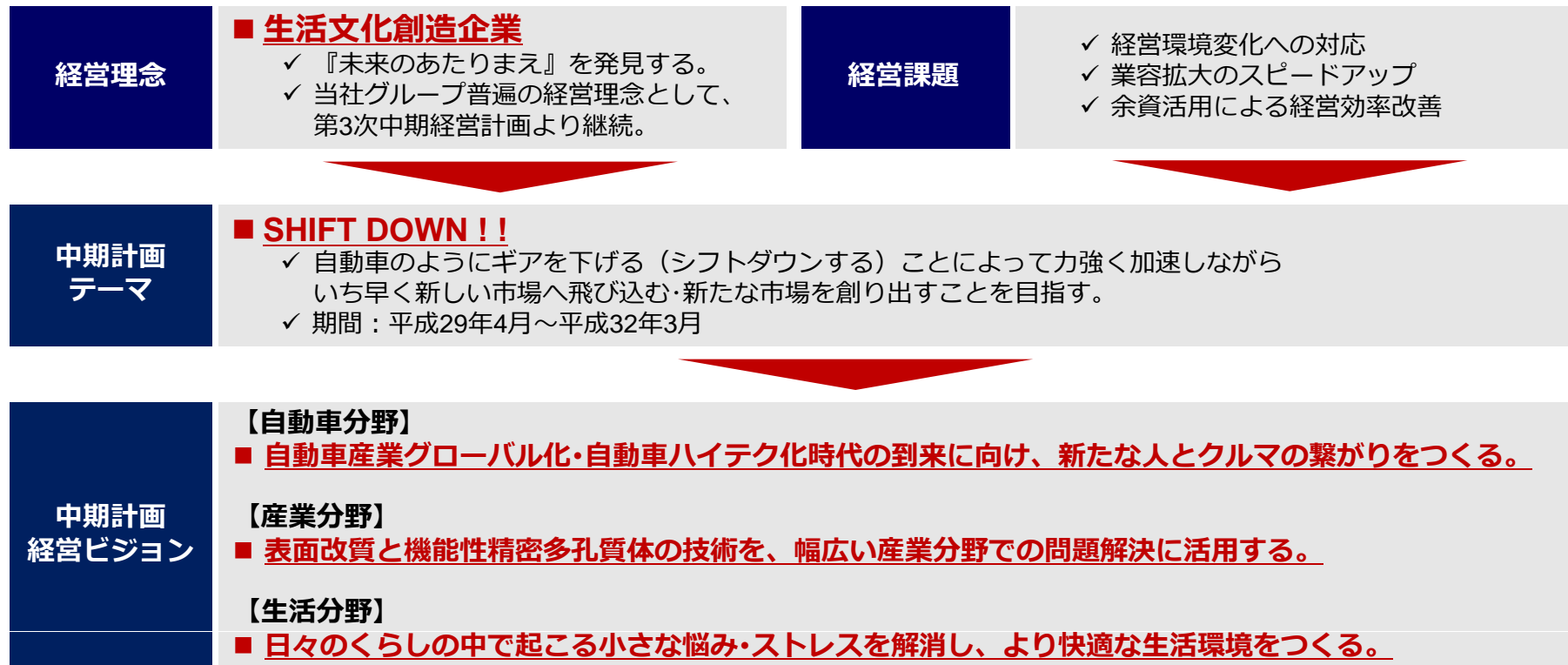


- 近年は自動車分野で大きな環境変化が起きつつあり、今後もこの動きの拡大が予想される。
- 産業分野においても、既存市場では更なる競争の激化が予想される。

環境変化の事例	
自動車分野	<ul style="list-style-type: none">■ 自動車保有形態の変化<ul style="list-style-type: none">✓ 若者のクルマ離れ✓ 都市部と郊外の自動車保有ニーズ二極化✓ 保有長期化✓ シェアリングエコノミーの拡大（カーシェアリング市場の成長、ライドシェア出現）■ 自動車の手入れや関連商品購買に関する意識変化<ul style="list-style-type: none">✓ 業務用コーティング施工車の増加✓ 自動車美装（洗車・メンテナンス）の外注化✓ 既存小売店（量販店・専門店）の成長鈍化とWEBショッピングの成長✓ モノ消費からコト消費へ、消費者の購買目的の変化■ 自動車のハイテク化<ul style="list-style-type: none">✓ 電気化・樹脂化・各種センシング機能の増加✓ コンピュータによる運転サポートやパーソナルモビリティへの官民による取り組みが進行■ モータリゼーションのグローバル化<ul style="list-style-type: none">✓ 中国・インド・東南アジア等、新興諸国での着実な市場拡大
産業分野	<ul style="list-style-type: none">■ ハイテク関連市場の競争激化<ul style="list-style-type: none">✓ IOTの拡大に伴うハイテク関連市場の成長可能性✓ CMPプロセスの高精細化対応等、半導体洗浄技術ニーズの更なる高度化✓ HDDストレージ市場の縮小による研磨ニーズの減少✓ 中国製等、安価な競合品の台頭
生活分野	<ul style="list-style-type: none">■ 購買に関する意識変化<ul style="list-style-type: none">✓ モノ消費からコト消費へ、消費者の購買目的の変化

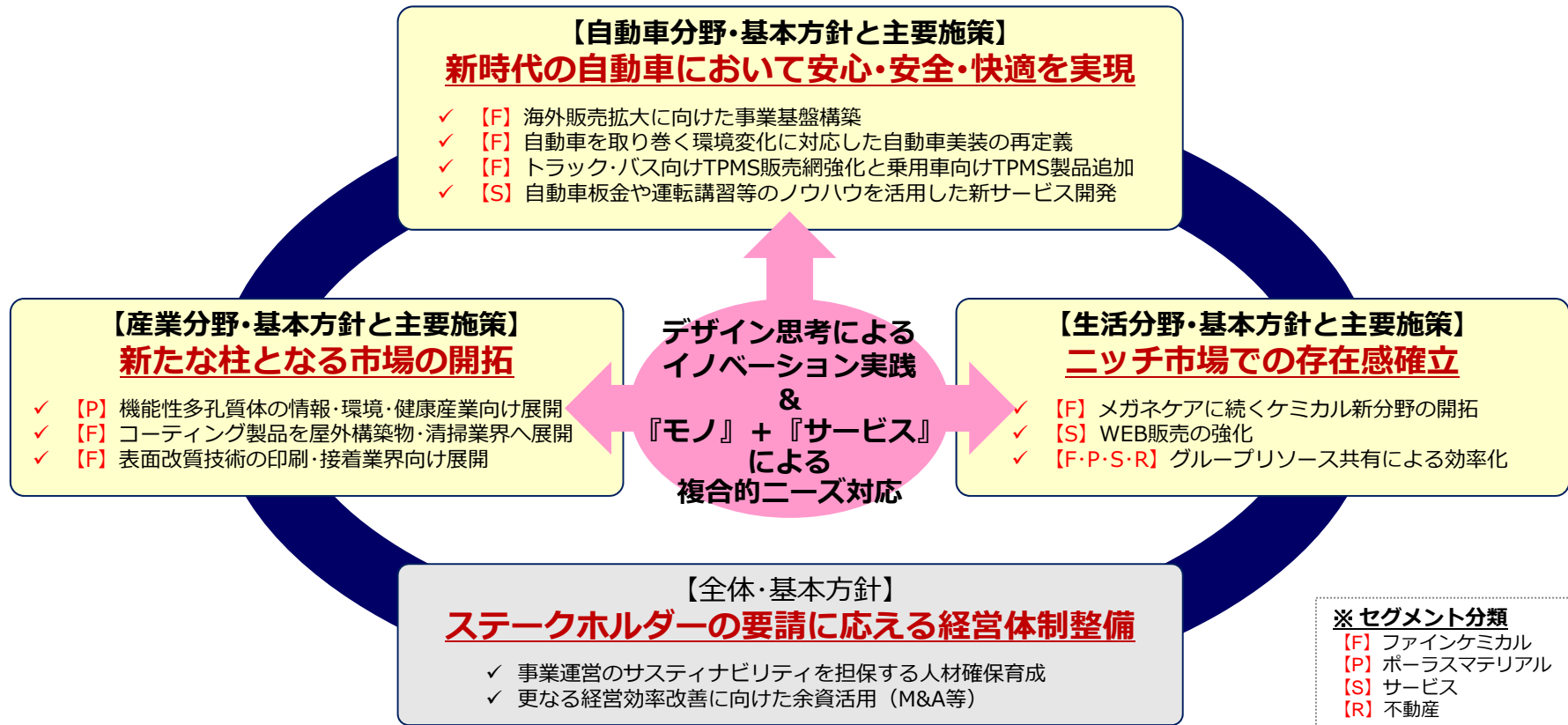
第5次中期経営計画の概要（1/7：テーマとビジョン）

- 新中期経営計画においては、経営環境の大きな変化を事業拡大のチャンスと捉え、前中計で成果の出始めた事業の推進に加えて、さらに新しい市場へ飛び込む・新たな市場を創り出すことをテーマとし、将来の継続的成長に向けた布石の期間と位置付ける。



第5次中期経営計画の概要 (2/7：経営基本方針)

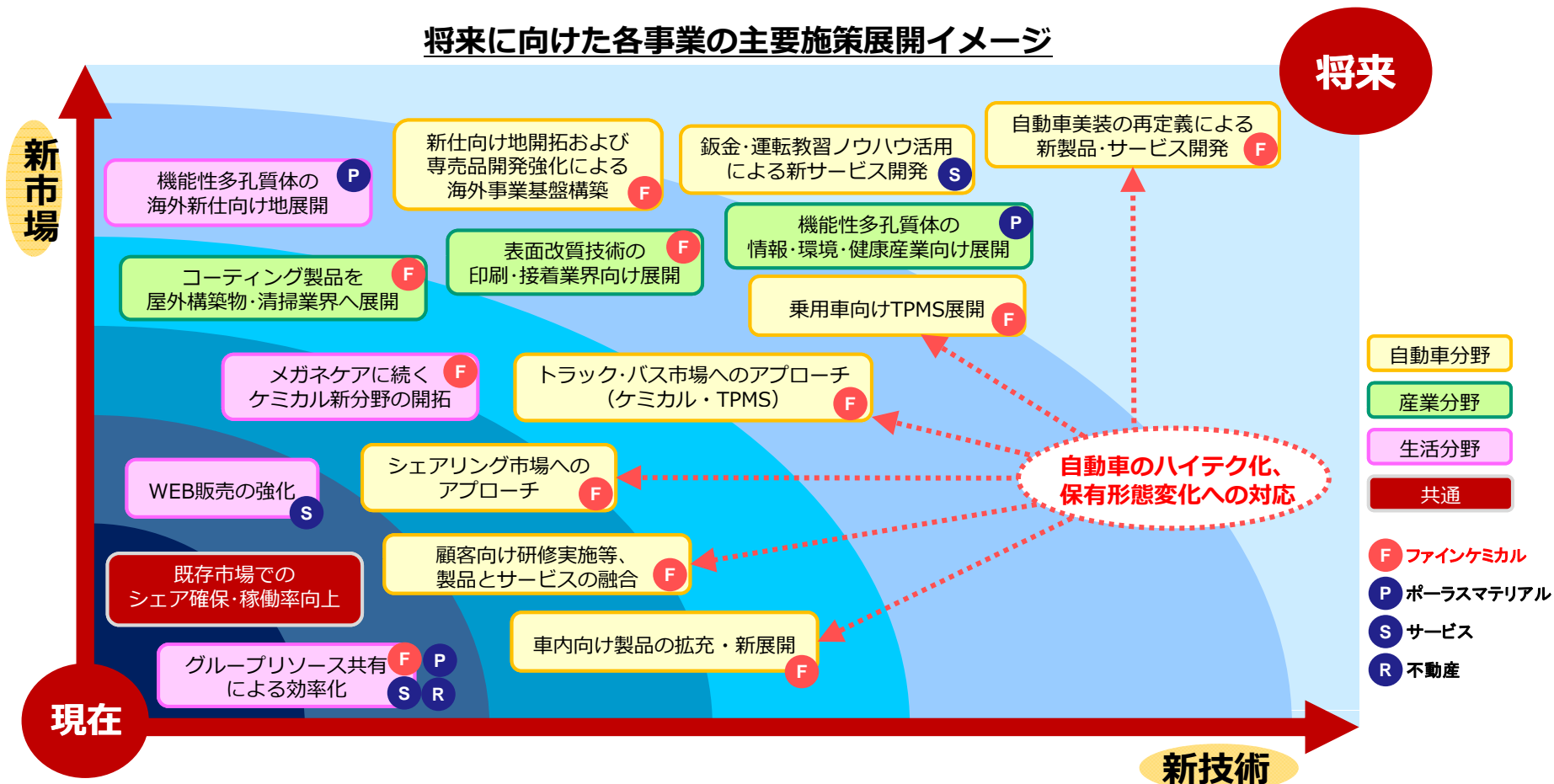
- テーマ・ビジョンを基に、新市場創出を目標として分野毎に経営基本方針を設定する。
- 特に製品・サービス開発においてはデザイン思考によるイノベーション実践を目指し、モノの提供にとどまらず、サービス提供までを含めた複合的なニーズ対応を目指す。



第5次中期経営計画の概要 (3/7 : 事業展開)

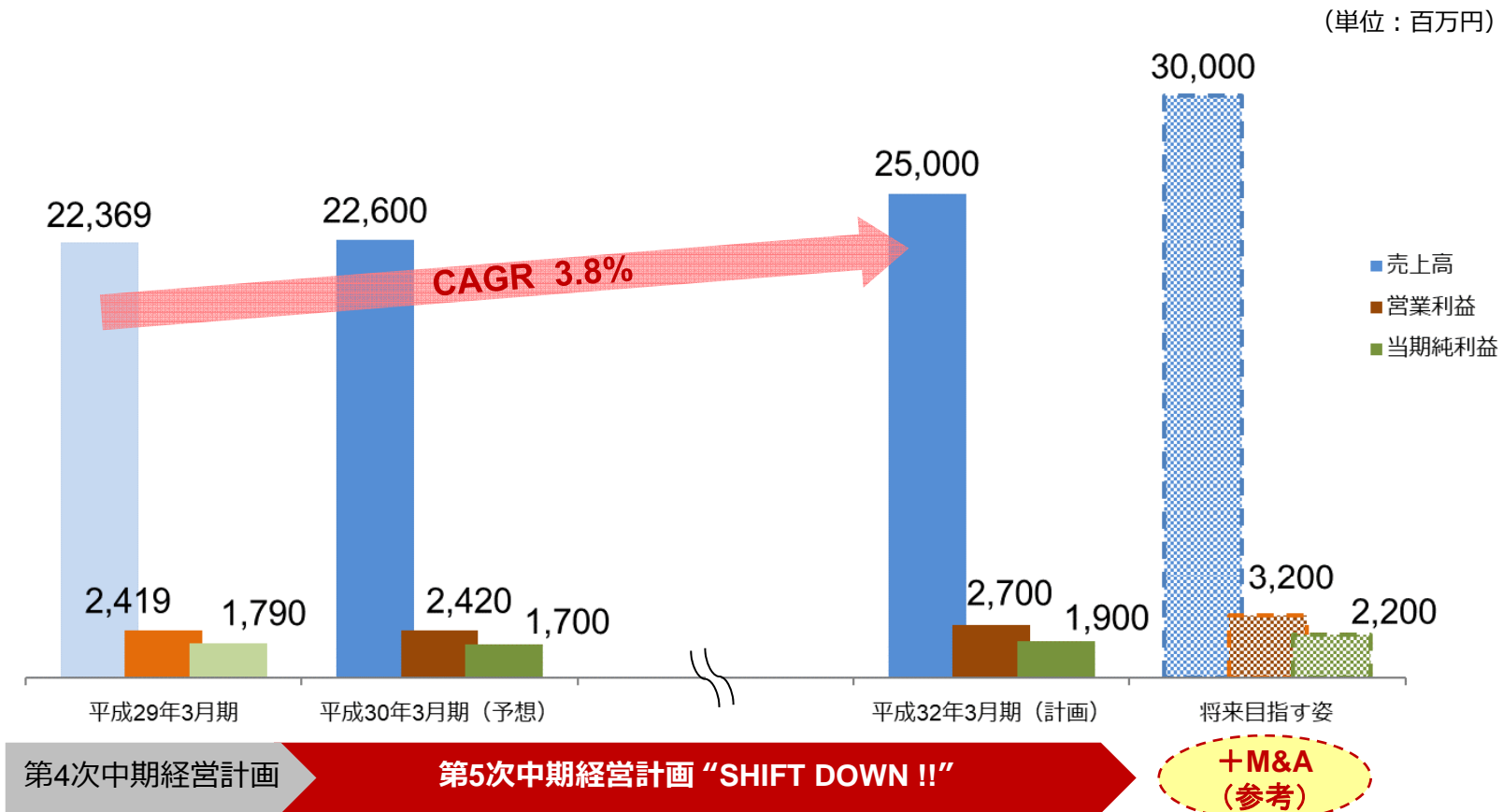
- 経営基本方針に基づき、ファインケミカルセグメント・自動車分野を中心に、新市場に向けた取り組みおよび新技術への取り組みを順次展開する。

将来に向けた各事業の主要施策展開イメージ



第5次中期経営計画の概要 (4/7 : 損益目標)

- 中期計画最終年度目標・・・連結売上高 250億円 (CAGR 3.8%)、連結営業利益 27億円
- M&A (計画外) を含めた将来目指す姿・・・連結売上高 300億円、連結営業利益 32億円



第5次中期経営計画の概要（5/7：損益目標・セグメント別）

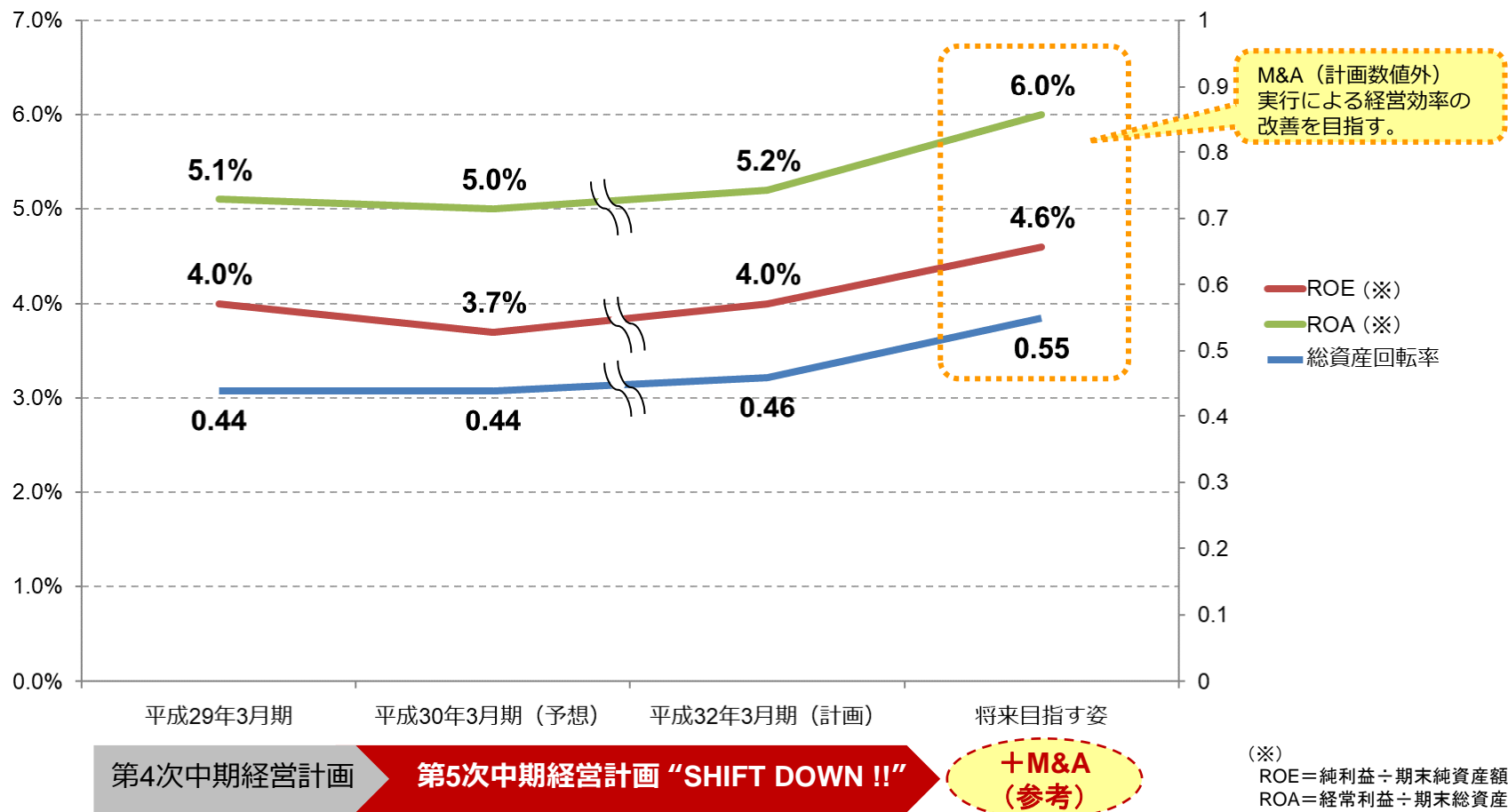
■ 新中期計画においては、ファインケミカルセグメントを中心とした成長を目指す。

（単位：百万円）

事業セグメント	売上高			営業利益		
	第4次中期計画 平成29年3月期	第5次中期計画 平成32年3月期	増減	第4次中期計画 平成29年3月期	第5次中期計画 平成32年3月期	増減
ファインケミカル	10,806	12,500	+ 1,693	1,305	1,530	+ 224
ポーラスマテリアル	5,178	5,600	+ 421	698	740	+ 41
サービス・不動産	6,383	6,900	+ 516	405	430	+ 24
（調整）	—	—	—	9	—	▲9
合計	22,369	25,000	+ 2,631	2,419	2,700	+ 281

第5次中期経営計画の概要 (6/7：経営効率性指標)

- 中期計画最終年度目標・・・ROA 5.2%、ROE 4.0%、総資産回転率 0.46
- M&A (計画数値外) の実行により更なる効率改善を目指す。



第5次中期経営計画の概要（7/7：株主還元方針）

- 株主還元については、安定的な配当の継続を基本方針とする。
- 本来の事業運営結果に直結し、特殊要因の影響を受け難い安定した還元を実現するため、平成30年3月期より『営業利益の20%』を株主還元の目安とする。
（ご参考：前中期計画の還元方針…配当性向25%、自己株買いを含む総還元性向30%を目安とする。）
- 内部留保は将来の事業拡大と経営体質の強化のための投資に活用。

配当実績の推移

	平成24年 3月期	平成25年 3月期	平成26年 3月期	平成27年 3月期	平成28年 3月期	平成29年 3月期 (予定)	平成30年 3月期 (予想)
連結営業利益（百万円）	1,908	1,955	1,862	1,750	2,250	2,419	2,420
連結純利益（百万円）	1,142	1,352	1,112	943	1,774	1,790	1,700
配当総額（百万円）	313	338	370	370	395	458	480
一株当たり配当額（円）	14.5	15.5	(※) 17.0	17.0	18.0	21.0	22.0
配当性向	27.4%	24.8%	33.1%	39.1%	22.1%	25.4%	28.1%
【参考】 配当総額÷営業利益	16.4%	17.3%	19.9%	21.1%	17.6%	18.9%	19.8%

(※) ……記念配当1.0円を含む。

長時間に亘り、
ご清聴ありがとうございました